Project No.
35 | 福祉

愛媛県内のこども食堂をデジタルでつなげる 情報共有で持続可能なこども食堂運営を支える

TRY ANGLE EHIME
トライアングルエヒメ

採択事業者名 サイボウズ株式会社

コンソーシアム構成員 サイボウズ株式会社｜特定非営利活動法人 U.grandma Japan

目 的

こどもの貧困対策としてスタートしたこども食堂。昨今は地域の交流拠点として、ますますその存在価値が高まっている。現在県内に約100件のこども食堂が存在するが、食材の確保やボランティアの確保など、それぞれ様々な課題を抱えている。本プロジェクトでは、こども食堂をデジタルでつなげることで、相互連携により効率的で持続可能な運営を実現する。

課 題

現状、こども食堂間の情報連携が十分でないため、資金・食材・ボランティア・場所などが効率的に運用出来ていない。また、各こども食堂において利用状況がデータとして把握されておらず、こどもの見守りなどにデータ活用がなされていない。

解決策

こども食堂間の情報共有グループウェアを構築することで、食材やボランティアなどの情報を共有し、適切に分配出来る仕組みを作る。また、利用者受付を従来の紙ベースからQRコード受付に変更し、利用履歴をデータとして蓄積することで、食堂の適切な運営や子育て支援に役立てる。

検証項目	成果・結果
システム利用施設数 愛媛県南予地域で10施設の利用を目指す **利用者登録数** こども食堂利用者500名の登録を目指す **受付時間削減** 一人あたりの受付時間を削減 **データ集計時間削減** 一日の利用人数集計時間の削減	**システム利用施設数** 10施設の利用登録を目指したが、個人情報の扱いに関する不安などもあり、3施設の登録に終わった **利用者登録数** こども食堂の利用者登録は435名と、目標にやや届かなかったが、携帯利用者は抵抗なくシステムを利用出来た **受付時間削減** システム導入前、一人当たり30秒程度かかっていた受付が、約5秒に短縮し大幅に削減できた **データ集計時間削減** システム導入前には3時間から5時間程度かかっていたデータ集計時間が不要となり、大幅に工数削減出来た
取り組み内容	
情報共有データベース構築 ノウハウ共有FAQ、レシピ共有データベース等を作成 **来場受付システム構築** 従来の紙ベースでの来場受付を、QRコード受付に変更することで受付及び集計工数を削減 **ボランティア活動記録システム構築** ボランティアの受付も紙ベースからQRコードに変更し、利用履歴の管理を簡素化する	

今後の見立て・意向

今回、こども食堂をつなげるプラットフォームが出来たことには大きな意義があり、現場からの期待も非常に大きい。しかしながら、まだまだシステム利用のハードルは高く、先ずはこども食堂間で情報共有を行う風土を定着させることが重要であると感じた。また、食材の共有に関して、現場のヒアリングによると、企業からフードロス対策で賞味期限切れ間近の食材が大量に寄付されるケースがあるが、食堂側ではそれを管理分配するキャパシティが限られており、逆に負担となるケースがある。ギャップ解消のために、適切な食材管理と分配ができる仕組みを構築する必要がある。南海トラフ地震への警戒が高まる中、こども食堂の炊き出しのノウハウへの期待が高まっている。災害発生時にスムーズに支援体制を立ち上げるためにも、平常時の情報共有が重要であると考える。実装を定着させより拡大するために、できるだけ早いタイミングで県及び全国を支援する中間支援団体へ、システムの運用を移管することも重要である。

取得データ

各こども食堂の利用状況が属性（小・中・高校、一般）別にデータとして取得可能となる。また、各こども食堂が持つレシピ情報やノウハウのFAQが蓄積され共有可能となる。

データ活用による考察・示唆

現状はこども食堂の利用状況データが十分に集まっていないため、データの活用には至っていないが、将来的には、子ども食堂ごとの運営状況が把握できるようになるため、より適正な子育て支援につながる。また、県内のこども食堂の運営状況を見える化することにより、防災時の支援体制の計画などにも活用出来ると考える。

Copyright © EHIME Prefecture. All rights reserved.